

# 第8回青葉通駅前エリアのあり方検討協議会

## これまでの振り返り

1. 協議会の設立背景
2. 協議会の経過
3. 現状の把握
4. エリアづくりの3つ視点
5. 社会実験の実施
6. 将来ビジョン策定に向けて
7. 将来ビジョン作成のための体制

# 1. 協議会の設立背景

## 【設立背景】

- ・青葉通駅前エリアにおける開発機運の高まり
- ・青葉通まちづくり協議会から「まちづくりビジョン」の提言
- ・ストリートをクルマ中心から「人中心」の空間へ転換（まちなかウォーカブル推進）
- ・都心再構築プロジェクトや新総合計画などによる新たなまちづくりの始動
- ・東日本大震災を踏まえた防災対応力の向上

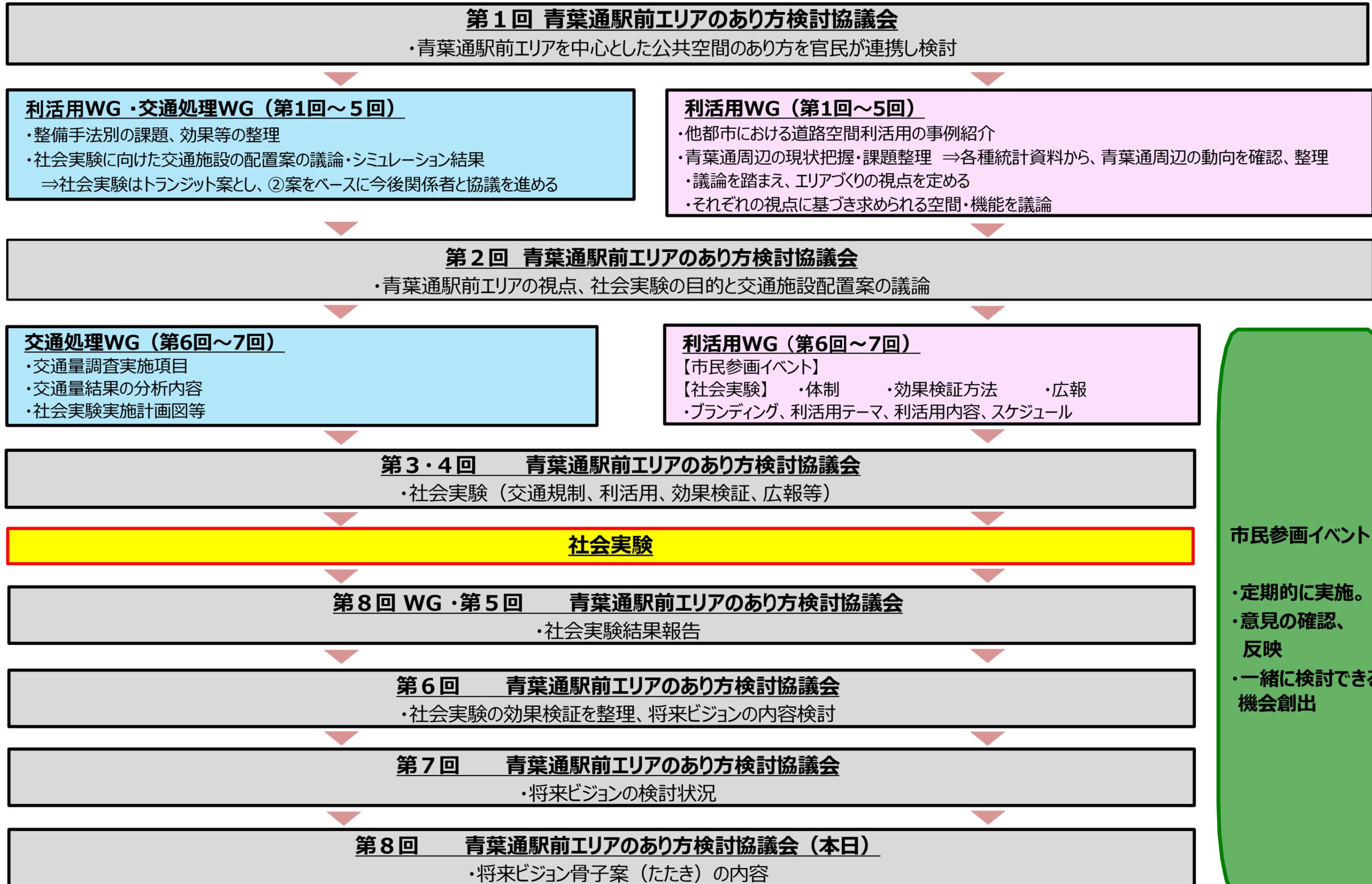
## 【設立趣旨】

青葉通駅前エリアを中心とした公共空間のあり方を官民が連携して検討するため

## 【協議対象範囲】



# 2. 協議会の経過



**市民参画イベント**

- ・定期的実施。
- ・意見の確認、反映
- ・一緒に検討できる機会創出

# 3. 現状の把握

各種統計データ等 年少人口の減少⇒若年層の減少

- 年少人口増減率は、宮城県が18位。東北5県がワースト5を占めている。  
⇒来街者の多くを占める若者が激減し、西口の来街者が減少

10年間の年少人口減少率（2012年～2021年）

順位	県名	年少人口減少率	年少人口減少数
1	東京都	6.4%	+95673人
2	沖縄県	-1.4%	-3546人
3	福岡県	-2.2%	-15397人
⋮			
18	宮城県	-10.4%	-31658人
⋮			
40	山梨県	-15.8%	-17768人
41	高知県	-16.0%	-14618人
42	和歌山県	-16.5%	-21182人
43	山形県	-17.8%	-26216人
44	福島県	-18.1%	-47297人
45	岩手県	-18.7%	-30854人
46	青森県	-21.5%	-36435人
47	秋田県	-22.5%	-27283人

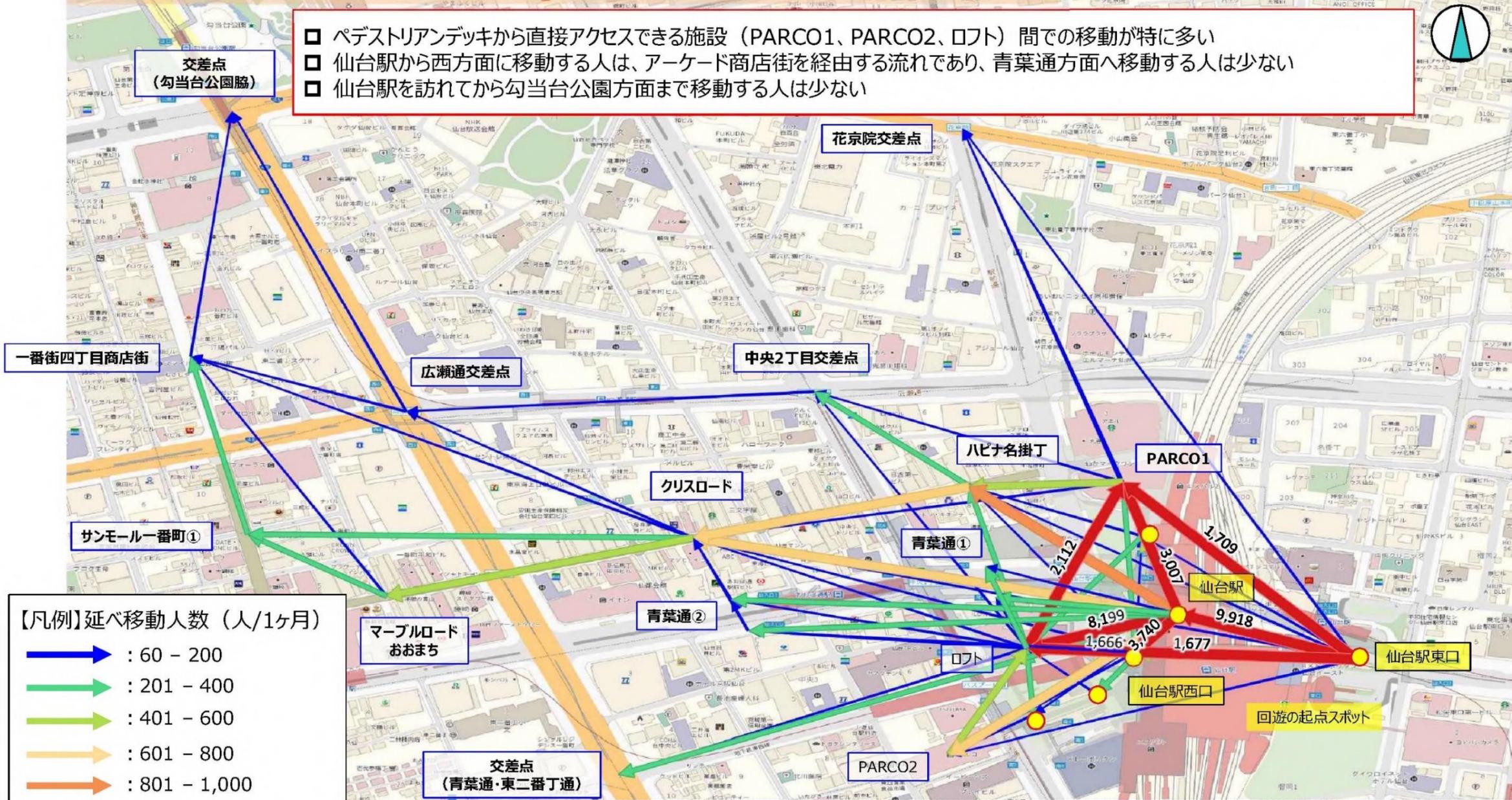
出典 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）より作成

# 3. 現状の把握

各種統計データ等（人流ビックデータ 仙台駅起点） ペDESTリアンデッキと東西自由通路だけで回遊

- 仙台駅、駅西口、駅東口⇔西側への人の移動を見ると、仙台駅周辺に集中。
- 仙台駅周辺に人が集まり、回遊しているが、青葉通駅前エリアには人があまり集まっていない状況

【人流ビックデータを用いた仙台駅西口周辺の代表地点間での人の移動状況の分析結果】



- ペDESTリアンデッキから直接アクセスできる施設（PARCO1、PARCO2、ロフト）間での移動が特に多い
- 仙台駅から西方面に移動する人は、アーケード商店街を経由する流れであり、青葉通方面へ移動する人は少ない
- 仙台駅を訪れてから勾当台公園方面まで移動する人は少ない

【凡例】延べ移動人数 (人/1ヶ月)

※移動人数が1日あたり2人（60人/1ヶ月）以上の経路のみを表示  
 ※仙台駅西または北方面から仙台駅方面への流動のみを表示  
 ※1,001人以上については、線上に実数を表示

【分析方法に関する解説・注意点】

- 分析対象：仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口いずれかの地点（●印）で測位が確認された人のその日の移動行動※  
 ※仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口で最初に測位が確認された時刻から、それ以降の移動行動のみを対象
- 分析方法：上記分析対象の移動行動に対して、各代表地点間での延べ移動人数を集計
- 注意点：代表地点間を移動していても、仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口のいずれも訪れていない人は分析対象外

(分析期間：2019年10月 分析データ：「ジョルテ」ログデータ※ 分析対象人数：10,287人/1ヶ月)

※株式会社ジョルテのカレンダー&スケジュールアプリ「ジョルテ」を利用するユーザーのログデータ

# 3. 現状の把握

## 仙台の顔とは？

- 「まち」にも表情があるのではないか



# 4. エリアづくりの3つの視点

## 視点1 仙台の顔としてのエリア

【視点から目指したいこと】

- ・このエリアや仙台の個性・強みを生かしながら、様々な人がこのエリアに行きたくなり、訪れる人に**仙台の第一印象として好印象**を与える、**市民が誇れるエリア**にすること
- ・エントランスの役割として、他エリア（東北、仙台市内、都心各エリア）へ導くこと。

## 視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア

【視点から目指したいこと】

- ・楽しみ、ワクワク感、居心地の良さ、暖かみ、安心感、魅力的・刺激的な経験といった**訪れる人の感情や活動を生み出し、様々な人が惹きつけられる**エリアとすること。
- ・人との交流や出会いによって、イノベーションが生まれるエリアとすること。

## 視点3 エリア価値向上のための挑戦するエリア

【視点から目指したいこと】

- ・新たな魅力を生み出すことや、社会の変化に応じて変えていくことなど、このエリアにかかわる**多様な主体がエリア価値向上のためにビジョンを共有し、挑戦すること。**

# 5. 社会実験の実施

## 社会実験概要

### 【実施内容】

仙台の顔としての新たな賑わい創出に向けた公共空間の利活用

### 【期間】

令和4年9月23日(金)～10月10日(月)の18日間

### 【交通規制】

車線数の減少、一般車通行止め(バス・タクシーのみ通行可)、旧さくら野前・ほうげつビル前へのバス停の移転



実験前(EDEN側)



実験中(EDEN側)

撮影 難波 明彦

# 6. 将来ビジョン策定に向けて

## 社会実験の実施・効果検証



協議会で検討した「エリアづくりの3つの視点」について、効果検証を実施

利活用空間により、多世代による多様な活動、交流、滞在等の新しい魅力や他エリアへの回遊を生み出せるエリアとしてのポテンシャルを確認



「仙台の顔」としてのエリアの将来ビジョンについて、  
**官民で「共通の認識」**を持ちながら、進めていきたい

※ビジョンでは、青葉通駅前エリアに求められる機能・空間・要素・規模感を検討

# 6. 将来ビジョン策定に向けて

## 将来ビジョンの策定目的

「仙台の顔」として、このエリアの将来のあり方について  
官民で「共通の認識」のうえ検討した結果を多様な主体と共有するため

### 【留意点など】

- ①「将来ビジョン」は決まりきった形はなく、構成は決まっているものではない
- ②沿道開発との連携を見据えながら検討  
⇒皆さんの意見を尊重しながら構成を検討
- ③広場化、車線削減等の形状に関することはビジョンに盛り込まない
- ④理念、ビジョン策定後のビジョン実現に向けた行動指針（アクション）、ロードマップ、推進体制等を盛り込む

# 7. 将来ビジョン作成のための体制

## 青葉通駅前エリアの あり方検討協議会

- 協議会名で将来ビジョンを策定

交通処理  
ワーキンググループ

- 将来ビジョンの内容を検討・議論

利活用  
ワーキンググループ

## 将来ビジョン検討事務局

- 社会実験の効果検証データの深堀
- 協議会委員等との意見交換
- 将来ビジョンのとりまとめ

将来ビジョンの素案を作成する組織として  
協議会内部に「将来ビジョン検討事務局」を設置

# 7. 将来ビジョン作成のための体制

## 将来ビジョン検討事務局 ～社会実験に携わって頂いた方々を中心に構成～

役割		担当			R4年度社会実験担当
統括・調整		仙台市都心まちづくり課・交通政策課			
連携・協力		青葉通まちづくり協議会			
効果検証データ 深堀	とりまとめ	委員	FOLK GLOCALWORKS	奥口 文結	ブランディング
		委員	KAI ARCHITECTS	貝沼 泉実	空間デザイン
			TORCH	小松 大知	ビジュアルデザイン
			(一社)ONE TOHOKU HUB	伊藤 愛発	プロモーション
	意見交換、 人材発掘の 機会づくり	委員	あいだ研究所 代表	岩間 友希	情報整理 定性調査サポート
			Studio Soda Sendai	昆野 沙耶	情報整理 定性調査サポート
			エンスペース(株)	伊藤 小百合	コンテンツ
効果検証データ分析・サポート		(株)オリエンタルコンサルタンツ			

# 7. 将来ビジョン作成のための体制

社会実験の企画・実施・検証の過程をまとめたアーカイブ冊子を作成

## MOVE MOVE ARCHIVE BOOK



青葉通仙台駅前エリア  
社会実験 MOVE MOVE  
アーカイブブック

効果検証の結果をもとに、将来ビジョン検討事務局内で意見を出し合い、検証の深掘りを実施

### <意見交換を通して見えたこと>

- 1 MOVE MOVE に訪れた「子ども・学生・社会人・主婦/主夫」がこのエリアに対し、それぞれの「居心地の良い賑わい」を求めている
- 2 「居心地の良さ」には「静的な居心地」と「動的な居心地」がある
- 3 「居心地の良い賑わい」をエリア価値に必要な要素として、将来ビジョン検討に取り入れていきたい